

提 案 書

平成26年 9月30日

(あて先)

埼玉県教育局教育総務部教育政策課長

所 属：埼玉県立松山高等学校

職 氏 名：教諭・鯨井 智巳

連絡先の電話番号：0493-22-0075

埼玉県教育委員会教職員提案制度募集要項に基づき、次のとおり提案します。

**タイトル： 学校ホームページの毎日更新への取組**

**実践事例の要旨：**学校のホームページは開かれた学校づくりや、生徒募集に重要な役割を果たしている。ホームページは1ヶ月も更新をしていないと、閲覧者は、再度見ようとはしない。

そこで、HP更新チームを立ち上げ、毎日更新することにより、閲覧者を増やし、効果的な学校のPRを行うことができると考えた。

**実践に至った背景：**平成23年度は管理職が1人でホームページを更新。管理職が異動となったため、平成24年度は教務主任の私が、1人で担当。業務の一極集中や、担当者の異動になった際の業務の中断が課題となっていた。よって、チームで更新する体制作りが必要と考えた。

**実践のねらい及び内容：**

**実践のねらい：**ホームページ更新をチームで行うことにより、業務の一極集中や担当者の異動による業務の中断を解消することができる。また、担当者の学校への帰属意識を高めることができる。

内容：

- ① 若手を中心に「ホームページ更新チーム」を立ち上げる。最初は私自身も更新に参加。ホームページの毎日更新によるアクセス数の増加や、保護者・地域の期待の高まりを説明することにより、先生方の意識も高まり、スムーズなチーム立ち上げに繋がった。
- ② 更新は1日1回、1名が担当。チームの人数によるが、1週間で1回更新をする程度。更新の際は簡易起案を必ず行う。負担がかからない程度に行うことで、毎日そして継続的に更新を行うことができる。
- ③ 更新する内容は、日々の教育活動について（定期考査、校内研修、部活動実績など）。生徒・保護者・教員に「松コメ原稿用紙」を渡し、コメントを依頼、ホームページに掲載する。（資料1参照）
- ④ ホームページ更新者が、生徒、保護者、教員への取材を行うことにより、学校への帰属意識を高めることができる。よって、学校にまだ慣れていない初任者や若手を中心にチームを結成した。

**実践の成果や効果**：平成25年度は、長期休業日を除き、毎日更新。年間40万件のアクセスを達成、理数科の志願者増に繋がり、本校の効果的なPRが行えた。  
また、更新者が生徒、教員、保護者へ取材を行うことにより、更新者の学校への帰属意識を高めることができた。

**実践期間**：平成25年4月～

**実践事例のセールスポイント**：

- ① 負担がかからない程度に行うことで、毎日、そして継続的に更新を行うことができる。
- ② チームで対応することにより、担当者の異動があっても業務が中断されることはない。
- ③ 生徒にコメントを書いてもらうことで、本校生徒の良さを外部に伝えることができる。また、出身中学校も記載し、中学生へ先輩の活躍を知ってもらうことにより、効果的な生徒募集にも繋がる。（資料2参照）
- ④ ホームページ更新者が、生徒、保護者、教員への取材を行うことにより、学校への帰属意識を高めることができる。よって、学校にまだ慣れていない初任者や若手を中心にチームを結成した。

**<実践事例を他校でも活用できる方策等>**

**\* 他校で導入する際のポイント**：ホームページの毎日更新をまず実践し、アクセス数の増加や、保護者・地域の期待の高まりを先生方に説明することにより、「更新チーム」の立ち上げがスムーズに行えると考える。

**\* 失敗しないための秘訣**：毎日行うことが大切である。1週間に1回程度なので負担は少ない。

**\* こうすれば自校よりも高い効果が得られるという方策**：「更新チーム」の仲間をいかに多くするかがポイントである。本校は若手にとどまっているが、学校全体に広げることにより、深みのある記事が掲載できる。

そのために、ホームページの毎日更新をまず少人数でも良いので実践し、アクセス数の増加や、保護者・地域の期待の高まりを研修会等で説明、多くの先生方の理解を得ることが大切である。

**\* その他**：特になし。

**公的支援（予算措置や教職員の加配等）への要望**

特になし。

**実践元の所属長確認**

動画や写真の使用許可

- ※ A4判縦の用紙に横書き3枚以内で提出してください。
- ※ 資料（印刷物、動画や写真のDVD）を添付していただいても構いません。
  - ◎ 印刷物による資料は規定枚数には含みません。
  - ◎ 資料提出に当たっては著作権や肖像権等に御注意ください。
- ※ 実践を行った学校名等が公開される可能性があります。予め、実践元の所属長に提案内容について御確認ください。

提案者

埼玉県立松山高等学校  
教諭 鯨井 智巳  
教諭 浅見 和寿  
教諭 藤田 暁子  
教諭 丹治 太郎





君(3年 中出身)のコメント

【自分は五千メートル競歩という種目でインターハイに出場しました。自分の目標は入賞することだったので、なんとしても予選通過しなければなりません。その予選はハイペースで進み、自己ベストで通過することができました。決勝は翌日の14時という暑い時間に行われ、このレースもハイペースで進みました。レース中、本当に暑くて、気持ちが切れそうになりましたが、先生方や仲間の声援が聞こえて、踏ん張ることができました。結果は入賞の8位で、とても嬉しかったです。この結果は、周りの方々の声援がなければ達成出来なかったと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。】

[編集](#) | [削除](#)

07:00 | [投票する](#) | 投票数(14) | コメント(0)